

今月のトピックス

- | インフルエンザが例年より早く流行期に入りました。
- | RS ウイルス感染症の報告が多い状態が継続しています。
- | 感染性胃腸炎、伝染性紅斑の報告が増加傾向です。
- | 海外(ベトナム)での麻しん感染例が報告されました。

全数把握の対象

【11 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	6 件
腸管出血性大腸菌感染症	6 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
デング熱	2 件	水痘(入院例に限る)	1 件
レジオネラ症	5 件	梅毒	2 件
アメーバ赤痢	6 件	風しん	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件	麻しん	1 件
急性脳炎	2 件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 件

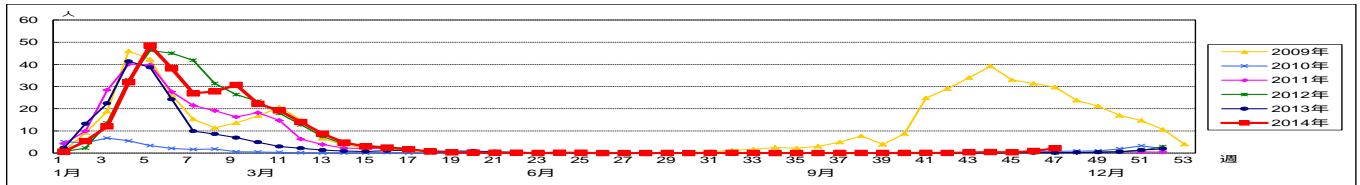
- 1 細菌性赤痢: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件あり、渡航先(インド:デリー)での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 計 6 件の報告がありました。原因が明らかになった集団感染はありませんでしたが、家族内感染が 1 件ありました。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは特に念入りにきれいにするのが大切です。
- 3 デング熱: 海外感染例が 2 件(タイおよびベトナムでの感染)報告されました。全国で、11 月以降国内感染例は報告されていません。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 5 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 5 件、腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4 件の届出があり、1 件は膝関節炎で *E.cloacae*、もう 1 件は尿路感染症で *E.cloacae*、もう 1 件も尿路感染症で *E.cloacae* および *Morganella morganii*、残る 1 件は血液から *E.cloacae* が検出されています。
- 7 急性脳炎: 2 件の報告(1 歳 7 ヶ月児、40 歳)がありました。病原体検索中です。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS 1 件、無症状病原体保有者 5 件の報告があり、すべて同性間性的接触による感染でした。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 乳児 1 件、成人 4 件報告がありました。乳児(2 ヶ月児)は 13 価結合ワクチン接種歴が 1 回有りました。成人例(40 歳代 1 例、50 歳代 1 例、80 歳代 2 例)では予防接種歴は確認できませんでした。
- 10 水痘(入院例に限る): 平成 26 年 9 月 19 日から入院例に限り届出が必要になりました。3 歳児の届出が 1 件ありました。予防接種歴は確認できませんでした。
- 11 梅毒: 早期顕症梅毒 期 1 件(異性間性的接触による感染)、無症候期 1 件(同性間性的接触による感染)の報告がありました。
- 12 風しん: 2 歳児の臨床診断例(予防接種歴 1 回有り)が 1 件ありました。
- 13 麻しん: 20 歳代男性の検査診断例(遺伝子型 D8)の報告がありました。予防接種歴は本人からの聞き取りでは 1 回有るとのことでした。渡航先(ベトナム)での感染が推定されています。海外からの感染を広げないためにも予防接種が大切です。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。
- 14 薬剤耐性アシネトバクター感染症: 平成 26 年 9 月 19 日から全数届出疾患になりました。70 歳代の届出が 1 件ありました。

定点把握の対象

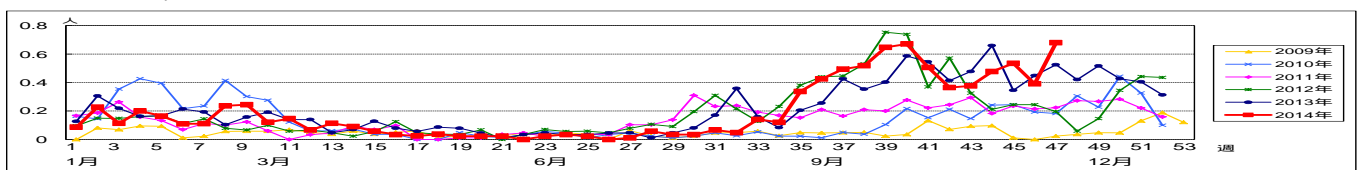
平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 44 週	10 月 27 日 ~ 11 月 2 日
第 45 週	11 月 3 日 ~ 9 日
第 46 週	11 月 10 日 ~ 16 日
第 47 週	11 月 17 日 ~ 23 日

- 1 **インフルエンザ**: 第 47 週は市全体で定点あたり 2.16 と、流行開始の目安となる 1.00 を上回り、昨年より 4 週間早く、最近 5 年間でも最も早い流行期入りとなりました。区別では都筑区 7.33 で最も多く、次に戸塚区 6.56、泉区 4.14 などと、13 区で 1.00 を上回っています。学級閉鎖も第 43 週 1 施設、第 46 週 1 施設、第 47 週 5 施設と増加しており、現在もさらに報告が続いています。第 47 週の迅速キットの結果では A 型 98.3%、B 型 1.2%、AB ともに検出 0.4% (小数点第 2 位四捨五入) と、ほとんどが A 型です。[全国のウイルス検出状況](#)ではほとんどが AH3 亜型 (A 香港型) です。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

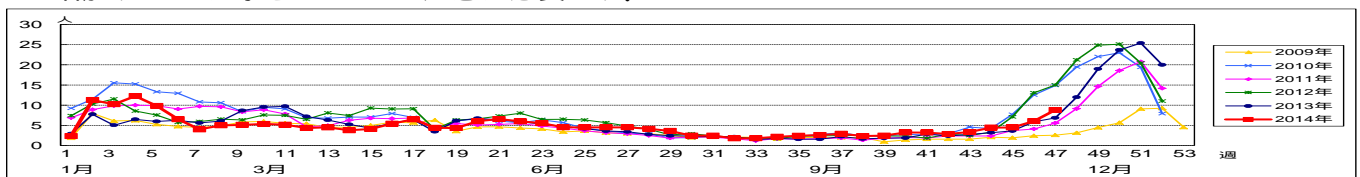
[横浜市インフルエンザ臨時情報](#) (衛生研究所)



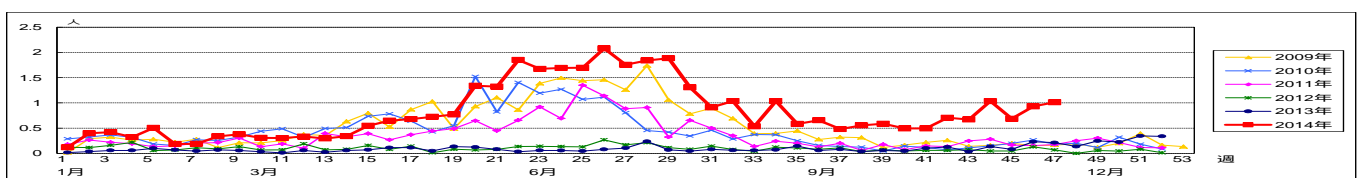
- 2 **RSウイルス感染症**: 第 47 週は市全体で定点あたり 0.68 と今シーズン最多になり、報告数の多い状態が継続しています。



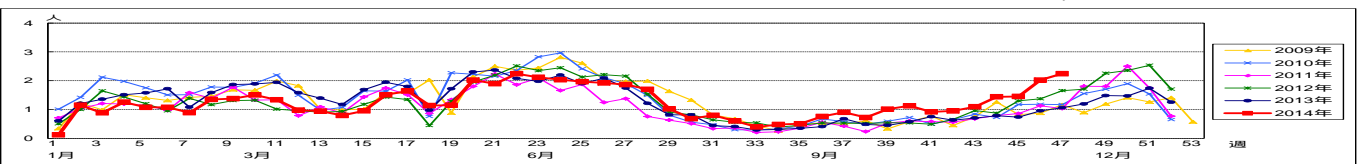
- 3 **感染性胃腸炎**: 第 47 週は 8.79 と増加傾向です。集団感染の報告も寄せられており、これからの季節にかけて増加することが予想されるため注意が必要です。



- 4 **伝染性紅斑**: 8 月頃は減少傾向を示していましたが、その後下げ止まった後、第 47 週は市全体で定点あたり 1.01 と増加傾向です。



- 5 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 47 週は市全体で定点あたり 2.24 と増加傾向です。



- 6 **性感染症**: 10 月は、性器クラミジア感染症は男性が 15 件、女性が 19 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 9 件、女性が 2 件でした。
- 7 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 44 週 1.50、第 45 週 0.50、第 46 週 0.00、第 47 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 8 **基幹定点月報**: 10 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 7 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>